

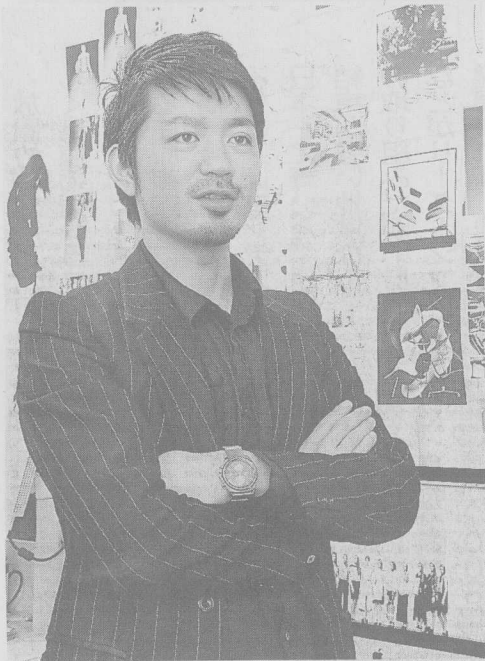


日本から最新ファッションを世界に発信する東京コレクションに、自分の名前を冠したブランド「Yasutoshi Ezumi」で参加。昨年10月のショーでは、建築物をデザインに取り入れた新作約30点を発表し、注目を集めた。

近代建築の巨匠であるル・コルビュジエの作品に刺激を受け、彼の建築のラインや好んだ色の構成をモチーフにしました。建築の技術や考えを服に置き換えると新しいものができるのではないかと思ひ、例えば服の縫い目を使って建築的な立体感を出してみました。

徹底したりサーチからテーマを突き詰めていくのが僕のスタイルです。写真をたくさん集め、

ファッションデザイナー 江角 泰俊さん(32) 広島市南区出身



「島根の高校時代は、広島のパルコに服を買いに行っていました」

デザインに「理」根底は禅

建築題材の服東京コレクションで発表

文章も大量に読む。服に生かせる建築物の構造を探し、デザインに落とし込みます。今回もデザイン画は200〜300枚書きました。

アレキサンダー・マックワイアなど世界的デザイナーを輩出しているロンドンのセントラル・セント・マーチンズ美術学校

で3年間学んだ。渡英前に大阪の芸術短大で服飾の勉強をしていたのですが、ファッションの教育の違いに面食らいました。課題を次々に与えられる日本と比べ、英国では自分で自由にテーマを設定し、何を表現したいのかという個性が大事です。在籍した学校

は十数カ国から約70人が集まっています、必然的に自分が育ってきた背景や環境を振り返り、何で勝負するかを突き詰めるようになりました。帰国してブランドを設立する際も、その思考力が役に立ちました。

ブランドのコンセプトに掲げたのは「理」。物理学者で、僧侶の

から座禅を組まされ、おやじから物理や心理の話が聞かされてきた。理にかなった服づくりを目指せば、着やすく、美しく、機能的なものになる。軸になる考えだとひらめきました。2010年のデビュー作のテーマは「長方形」でした。生地を無駄にせず、動きやすい合理性を追求しました。日本の着物にも通じるものがありますね。

自らも僧籍を持つ。お盆に帰省すると、けさを着て檀家を回っている。

ロンドンの学校を卒業した直後に、髪をそり京都の総本山で修行しました。帰国子女のようで、話し方から食事の仕方から何もかも怒られた。地獄のように厳しい生活だったのですが、得るものも多かった。無駄のない生活は、理にかなっているんですよね。全てに合理性があり、それが作法になっている。精神的にも強くなった。実家に帰ると、今でもおやじと座禅を組んでいます。

父の影響で「物にはあるべき姿がある」との思想が根底にある。実家は島根のお寺で、幼い頃

えずみ・やすとし 広島市南区生まれ。皆実小4年の時に、島根県斐川町(現出雲市)に移住。渡英中はアクアスキュータムのデザイナーも務め、08年に帰国した。東京都世田谷区在住。父弘道さん(69)は広島電機大(現広島国際学院大)名誉教授で、臨済宗仁照寺の住職。

(藤村潤平)